

サクラメント 知っておきたい基督教のことば (80)

日本聖公会の祈祷書にある教会問答には、このような問いがあります。「救いに必要な聖奠（サクラメント）とは何ですか」。

そしてこの問いに対する答えは「目に見えない霊の恵みの、目に見えるしるしまだ保証であり、その恵みを受ける方法として定められています」。

サクラメントは聖公会では聖奠と訳しますが、カトリックでは秘跡、正教会では機密、そして多くのプロテスタント教会では聖礼典（礼典）と呼ばれています。語源は「兵士が軍に忠誠を誓う」であり、それが転じて人間がキリストに服従することを意味するようになりました。



古代基督教の神学者アウグスティヌスは、サクラメントとは見えない恵みの見えるしるしだと説明しました。つまり目には見えないイエス・キリストとのつながりを、目に見える形で行うということです。

プロテスタント教会では、イエス様が定められた洗礼と聖餐の二つだけをサクラメントとしました。この二つの儀式によって、わたしたちはイエス様に結びつくと考えています。

一方カトリック教会や正教会では、洗礼、聖餐の他に、堅信、告解、終油、叙階、婚姻を合わせた七つをサクラメントと定めています。聖公会はプロテスタントと同じ二つだけと考えていますが、残りの五つは聖奠的諸式(サクラメンタル ライツ)として、同じように大切にしています。

パウロは、サクラメントとは魔術的な効力を持つものではないと言っています。洗礼や聖餐を受けただけで、違う人間になってしまうわけではありません。しかしイエス様が一緒にいてくださることを感じる事ができれば、素晴らしいことだと思います。

次回は「サドカイ派」です。お楽しみに。